授業科目	幼児と人間関係		授業形態	演習	単位数	1	単位
担当者	太田裕子						
ナンバリング	ESM1A11	開講時期	1年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼児:必修 保育士:必修 主事任用:			実務経験のある教員による授業科目		該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	テキストや配付資料を用いて、乳幼児期の人間関係の発達、現代の子どもを取り巻く人間関係をめぐる課題を学ぶ。また、保育現場で見られる具体的な事例に関する映像資料の視聴及びグループ討議を通して、発達の過程における人と関わる力の育ちの重要性についての理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、説明ができる。 ・子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。 ・乳幼児期の人間関係の発達について、幼稚園、保育所、認定こども園における子どもの姿や、人間関係に関する発達論的視点から理解する。 ・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」を身につける。 						
アクティブラーニングの実施	○		ICTを活用した授業の実施				
授業計画	第1回	テーマ	子どもを取り巻く人間関係の現代的特徴				
		内容	子どもを取り巻く人間関係について学び、現代の特徴についてグループディスカッションを行う。				
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： グループディスカッションについての感想をまとめる。				
	第2回	テーマ	生涯発達と人間関係 (担当 太田)				
		内容	保育における領域「人間関係」の位置づけ、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいと内容を知り、生涯発達における人間関係の意義を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 幼稚園教育要領解説 P.357、保育所保育指針解説 P.421～422、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 P.411～412 を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第3回	テーマ	乳児期の人との関わり				
		内容	乳児期の人との関わりの重要性について学び、保育における乳児のとの関わり方について考える。				
		授業時間外学修	予習： 保育所保育指針解説 P.101～109、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 P.166～173 を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第	テーマ	生活の中で育つ人と関わる力①家族との関わり				

4 回	内 容	子どもが家族の愛情に気づき、家族を大切にしようとする気持ちを育む体験についてグループディスカッションを行う。
	授業時間外 学修	予習： 幼稚園教育要領解説 P. 62～63 を読み、自分自身の幼少期からこれまでの生活を通して家族の愛情を感じた経験を書き出す。 復習： グループディスカッションについての感想をまとめる。
第 5 回	テーマ	生活の中で育つ人と関わる力②地域との関わり
	内 容	子どもが地域の人々などと触れ合い親しみをもち、人と関わる楽しさを味わえるような体験についてグループディスカッションを行う。
第 6 回	授業時間外 学修	予習： 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 P. 259～260 を読み、自分自身の幼少期からこれまでの生活を通して地域の人々と触れ合い、親しみを感 じた経験を書き出す。 復習： グループディスカッションについての感想をまとめる。
	テーマ	園生活の中で育つ人と関わる力①保育者の役割
第 7 回	内 容	保育実践の事例を踏まえ、園生活の中で子どもの人と関わる力を育む保育者の役割 について考える。
	授業時間外 学修	予習： 幼稚園教育要領解説 P. 167～192、保育所保育指針解説 P. 135～144、P. 204 ～227、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 P. 189～195、P. 239～ 259 を確認し、自分自身の幼少期における保育者との関わりを書き出す。 復習： 授業内で課されたワークシートをまとめる。
第 8 回	テーマ	園生活の中で育つ人と関わる力②友だちとの関わり
	内 容	保育実践の事例を踏まえ、園生活の中で人と関わる力を育む友だち関係の構築につ いて考える。
第 9 回	授業時間外 学修	予習： 幼稚園教育要領解説 P. 167～192、保育所保育指針解説 P. 135～144、P. 204 ～227、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 P. 189～195、P. 239～ 259 を確認し、自分自身の幼少期における友だちとの関わりを書き出す。 復習： 授業内で課されたワークシートをまとめる。
	テーマ	子どもの遊びの中で育つ人と関わる力①保育者の役割
第 10 回	内 容	保育実践の事例を踏まえ、遊びの中で子どもの人と関わる力を育む保育者の役割に ついて考える。
	授業時間外 学修	予習： 実習日誌を読み直し、人と関わる力を育む保育者の支援を再確認しておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 9 回	テーマ	子どもの遊びの中で育つ人と関わる力②友だちとの関わり
	内 容	保育実践の事例を踏まえ、人と関わる力を育む友だち関係の構築の重要性について 学ぶ。
第 10 回	授業時間外 学修	予習： 実習日誌を読み直し、友だちとの関わりをとおして人と関わる力を培う子 どもの姿を再確認しておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	テーマ	子どもの自立心の育ち
第 10 回	内 容	具体的な事例を踏まえ、「自立心」に関する子どもの育ちを学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 幼稚園教育要領解説 P. 56～57、保育所保育指針解説 P. 66～67、幼保連携型 認定こども園教育・保育要領解説 P. 52～54 の「自立心」の項を読む。

			復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 11 回	テーマ	子どもの協同性の育ち	
	内 容	具体的な事例を踏まえ、「協同性」に関する子どもの育ちを学ぶ。	
	授業時間外 学修	予習： 幼稚園教育要領解説 P. 58～59、保育所保育指針解説 P. 68～69、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 P. 54～55 の「協同性」の項を読む。 復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる。	
第 12 回	テーマ	子どもの道徳性・規範意識の芽生え	
	内 容	具体的な事例を踏まえ、「子どもの道徳性・規範意識の芽生え」に関する子どもの育ちを学ぶ。	
	授業時間外 学修	予習： 幼稚園教育要領解説 P. 60～61、保育所保育指針解説 P. 70～71、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 P. 55～57 の「子どもの道徳性・規範意識の芽生え」の項を読む。 復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる。	
第 13 回	テーマ	子どもの人間関係の広がり	
	内 容	保育実践の映像視聴を踏まえ、子どもの人間関係の広がりについて考える。	
	授業時間外 学修	予習： 保育所保育指針解説 P. 416、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 P. 405～406 を読む。 復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる。	
第 14 回	テーマ	人との関わりにおいて様々な配慮が必要な子どもへの支援	
	内 容	人との関わりにおいて配慮が必要な子どもの実状を知り、援助のあり方について考える。	
	授業時間外 学修	予習： 実習日誌を読み直し、個別支援を要する子どもの姿と保育者の援助を再確認しておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第 15 回	テーマ	子どもを取り巻く人間関係における現代的課題	
	内 容	子どもを取り巻く人間関係に関する現代の課題を学び、保育実践における配慮事項について考える。	
	授業時間外 学修	予習： 新聞記事等を参考にして、現代の子どもをとりまく人間関係についての課題にはどのようなものがあるかを書き出す。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
教科書・テキスト	幼稚園教育要領解説（平成 30 年 3 月 文部科学省） 保育所保育指針解説（平成 30 年 3 月 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成 30 年 3 月 内閣府・文部科学省・厚生労働省）		
参考書・参考資料等	授業中に適宜資料を配付する。		
成績評価の方法・基準	最終レポートと毎回の授業後に提出する小レポートにより、乳幼児期の人間関係に関する専門的理解の程度（70%）、「自分で考え、実践できる能力」（1）獲得の程度（20%）、授業参加度（10%）で評価する。最終レポートについては、採点后講評する。		
課題に対するフィードバックの方法	授業後に提出された小レポートについては、次回の授業にて解説する。最終レポートについては、採点后講評する。		
授業時間外学修	予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。最終レポート作成に向けてテキストや資料を見直し、既習内容を確認する。（約 8 時間）		
備 考	—		

連絡先（質問等）

授業前後に、教室にて質問を受け付ける。

授業科目	幼児と環境		授業形態	演習	単位数	1単位	
担当者	荒明 聖						
ナンバリング	ESM1A12	開講時期	1年次前期	授業時間数	30時間	授業回数	15回
必修・選択	幼児:必修 保育士:必修		実務経験のある教員による授業科目			該当	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	関係法規、指導要領、保育指針等をふまえ、幼児を取り巻く環境とその喫緊の課題を考察するとともに、幼児にとって身近な環境を人・自然・社会・材料素材の視点からとらえて魅力ある保育環境を構成することを学ぶ。フィールドワークを中心としたアクティブな講義・演習をもとに実践的に理論を構築する。なお、フィールドワークについては天候を考慮して実施する。						
アクティブラーニングの実施	○		ICTを活用した授業の実施	○			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児を取り巻く環境を様々な見方・考え方からとらえ、社会的要請から環境課題を分析する。 ・身近な環境を人・自然・社会・材料素材の視点からとらえ直して考察する。 ・学びや生活の基盤をつくる『架け橋期の保育』を環境の視点から考察する。 ・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」力を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	幼児の世界観と環境				
		内容	オリエンテーション、幼児を取り巻く環境の状況をとらえる。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを読み解く。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、質問事項をまとめる。				
	第2回	テーマ	「ほいくえん たんけん」(人・社会・材料素材)				
		内容	魅力的な保育環境の構成を意図し、「ほいくえん たんけん」をキャンパス探検に置き換えて実践的に環境構成の視点を学ぶ。				
	第3回	授業時間外学修	予習：授業計画に示されたテーマに対して課題意識をもつ。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、質問事項をまとめる。				
		テーマ	「はる さがし」(自然)				
	第4回	内容	キャンパス内(外)の自然環境を生かした春探しを行い、収穫した自然物の活用や小学校教科・領域との関連について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：授業計画に示されたテーマに対して課題意識をもつ。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、質問事項をまとめる。				
	第5回	テーマ	「まち たんけん」(人・社会・自然)				
		内容	園外保育を行う際に留意すべき内容をふまえ、実際にキャンパス近隣の街探検を行いながら園外保育の留意点を実践的に学ぶ。				
	第6回	授業時間外学修	予習：授業計画に示されたテーマに対して課題意識をもつ。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、質問事項をまとめる。				
		テーマ	「ゴミは幼児の宝物」(材料素材)				

5 回	内 容	幼児にとって身近な材料素材の視点から（例；ペットボトルキャップや新聞紙）を生かした創造的な遊び方を考察する。
	授業時間外 学修	予習：授業計画に示されたテーマに対して課題意識をもつ。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、質問事項をまとめる。
第 6 回	テーマ	「いきもの しいく」（自然）
	内 容	キャンパス内（外）の自然環境を観察、昆虫等の採集を通して飼育環境を設定し、生命尊重の視点との関連について学ぶ。
第 7 回	授業時間外 学修	予習：授業計画に示されたテーマに対して課題意識をもつ。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、質問事項をまとめる。
	テーマ	「華やか 花野果」（人・自然）
第 8 回	内 容	保育や教育の現場で栽培されている花や野菜や果実について知り、種まき（苗植）－水かけ－観察－収穫過程での留意点や人とのかかわりについて学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：授業計画に示されたテーマに対して課題意識をもつ。 *「アレルギー」関連で留意点がある場合には事前に申し出ること 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、質問事項をまとめる。
第 9 回	テーマ	「むかしから つたわる あそび」（人・社会・材料素材）
	内 容	伝承遊びや地域に伝わる民話など、現代幼児にも楽しめるようなデジタルではない素朴な遊びにふれ、実際に伝承遊びの構成を通して学ぶ。
第 10 回	授業時間外 学修	予習：授業計画に示されたテーマに対して課題意識をもつ。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、質問事項をまとめる。
	テーマ	「つかえるもの つかうことがら」（人・材料素材）
第 11 回	内 容	幼児にとって身近な材料素材は創造的な遊びに活用できるだけでなく、保育環境の効果的な構成・掲示・提示に有効であることを学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：授業計画に示されたテーマに対して課題意識をもつ。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、質問事項をまとめる。
第 12 回	テーマ	「できるよ できたよ」（人・社会）
	内 容	遊びを通してできるようになった様々な成長を振り返るとともに、その成果披露（発表）をプロデュースする際の環境構成について学ぶ。
第 13 回	授業時間外 学修	予習：授業計画に示されたテーマに対して課題意識をもつ。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、質問事項をまとめる。
	テーマ	「いのち あんぜん あんしん」（人・社会・自然）
第 14 回	内 容	幼児を取り巻く環境を生命尊重から安全安心の視点でとらえ、自然災害・人的災害を含めた危機管理の基礎的事項を学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：授業計画に示されたテーマに対して課題意識をもつ。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、質問事項をまとめる。
第 15 回	テーマ	「架け橋期」って？
	内 容	幼児を取り巻く環境を、学びや生活の基盤をつくる『架け橋期の保育』の視点からとらえ、社会的要請から小学校教育への橋渡しについて学ぶ。
第 16 回	授業時間外 学修	予習：授業計画に示されたテーマに対して課題意識をもつ。 *災害に関して留意点がある場合には事前に申し出ること 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、質問事項をまとめる。

	第13回	テーマ	生活科から学ぶ保育
		内 容	生活科教科書等を閲覧し分析的にとらえる活動を通して、小学校側から保育側に活用できる点を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：授業計画に示されたテーマに対して課題意識をもつ。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、質問事項をまとめる。
	第14回	テーマ	保育案の作成してみよう
		内 容	環境素材を生かした保育案（略案）の作成を通して、環境の視点から行う保育とその援助の在り方について学ぶ。
	第15回	授業時間外 学修	予習：課題意識をもち、保育案についてインターネットや紙媒体等でふれておく。 復習：14回の演習を通してさらに深めたい内容についてメモを作成しておく。
		テーマ	まとめと「小論文」
		内 容	① これまでの環境素材演習のまとめ、②「小論文」作成
		授業時間外 学修	予習：「小論文」作成にあたり、これまでの学びから自分のテーマを考えておく。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理する。
教科書・テキスト	幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）		
参考書・参考資料等	講義・演習において適宜配付		
成績評価の方法・基準	講義・演習後の「小レポート」（14回）及び「小論文」（1回）により、幼児を取り巻く環境を様々な見方・考え方からとらえて課題を分析、人・自然・社会・材料素材の視点からとらえ直し、学びや生活の基盤をつくる『架け橋期の保育』を環境の視点から考察する諸能力の状況（70%）、「自分で考え、実践できる能力」(1)の獲得状況（20%）、出席度（10%）により評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	「小レポート」（14回）は、次時の講義・演習において解説してフィードバックする。 「小論文」は、実施後に講評する。		
授業時間外学修	予習、復習ともに授業計画で示した内容を実施（各20分間程度）し、既習事項と本時内容との関連性をふまえた効果的な学びとすることで資質・技能を高めるようにする。なお、演習内容に係る材料素材が必要になるため、第1時の演習オリエンテーションにおいて紹介する物品のリサイクル活用準備を行う。		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 国立幼稚園で4歳児保育、国立小学校で文部科学教官・教頭、公立小学校で教諭・教頭・校長、教育行政（幼児教育・生活科教育・道徳教育担当）の実務経験をもつ。幼稚園教員養成課程卒であることから自身の具体的な経験をふまえて指導する。 また、東日本大震災発災当時、津波被災小学校教頭であったことから、環境変容による保育・教育について実体験をもとに演習とかかわって指導する予定である。 なお、学生の理解度や講義・演習に係る社会情勢をふまえて内容を一部変更することがある。		
連絡先（質問等）	オフィスアワー 金曜日12時25分～12時55分、講義・演習の前後、その他要相談		

授業科目	幼児と言葉		授業形態	演習	単位数	1 単位
担当者	木村重子					
ナンバリング	ESM1A13	開講時期	1 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数 15 回
必修・選択	幼児:必修 保育士:必修		実務経験のある教員による授業科目			該当する
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。					○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。					
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。					○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。					
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。					
授業の概要・方法	言葉の特性や発達についての知識を獲得させるとともに、伝えることの重要性や難しさについて、映像資料やグループディスカッション、事例、絵本等を用いて考えさせる。					
アクティブラーニングの実施	○		ICT を活用した授業の実施			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の特性や発達過程、言葉による伝え合いの大切さを理解することができる。 「コミュニケーション能力」(4)「対話する能力」を身につける。 					
授業計画	第1回	テーマ	言葉と事物の関係について			
		内容	事物と名前を考え、言葉の働きについて学ぶ。			
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。			
	第2回	テーマ	言葉の記号性について			
		内容	記号とは何か、どんな特徴があるのか考え、言葉の性質について学ぶ。			
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。			
	第3回	テーマ	言葉の意味について			
		内容	意味とは何か、どんな特徴があるのか考え、言葉の意味について学ぶ。			
		授業時間外学修	予習： 自分の体験を振り返り、意味を取り違えたことがなかったか考えておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。			
	第4回	テーマ	文脈（コンテキスト）について			
		内容	文脈とは何か、伝達においてどんな役割を果たしているのか考え、伝達の仕組みについて学ぶ。			
		授業時間外学修	予習： 自分の体験を振り返り、友だちと話はずんだ時のことを考えておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。			
	第5回	テーマ	言葉で伝える難しさについて			
		内容	「奇跡のひと」という映画を視聴し、言葉で伝えることの難しさを感じ取る。			
		授業時間外学修	予習： 自分の体験を振り返り、どんな時に言葉を使う難しさを感じたか整理しておく。 復習： 自分が映画の主人公の立場であったら、どのような生活を送っていたか想像し、まとめておく。			
第	テーマ	言葉の発達過程について (1)				

6 回	内 容	乳児の言葉の発達過程について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 乳児の生活について調べておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 7 回	テーマ	言葉の発達過程について (2)
	内 容	幼児の5歳頃までの言葉の発達過程について学ぶ。
第 8 回	授業時間外 学修	予習： 自分の幼児期を振り返り、言葉についての記憶をまとめる。 復習： 幼児個々の言葉の発達段階の違いについて整理する
	テーマ	ごっこ遊びと言葉について
第 9 回	内 容	ごっこ遊びが言葉の発達に与える影響について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： ごっこ遊びについての自分の体験を思い出し、まとめておく。 復習： 幼児のごっこ遊びの実態について調べておく。
第 10 回	テーマ	幼児と絵本について (1)
	内 容	絵本の特徴について学ぶ。
第 11 回	授業時間外 学修	予習： 絵本についての自分の体験をまとめておく。 復習： いろいろな絵本を読んでみる。
	テーマ	幼児と絵本について (2)
第 12 回	内 容	絵本が幼児に与える影響について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 幼児が好む絵本を調べておく。 復習： 幼児に合わせて絵本を選んでみる。
第 13 回	テーマ	言葉とテレビ番組について
	内 容	アニメや幼児番組を視聴して、言葉との関係について学ぶ。
第 14 回	授業時間外 学修	予習： 幼児がよく見るテレビ番組について調べておく。 復習： テレビ番組が幼児に与える影響について考える。
	テーマ	言葉と音楽について
第 15 回	内 容	言葉と音楽、幼児と音楽の関係について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 幼児が好む音楽について調べておく。 復習： 音楽が幼児に与える影響について考える。
第 16 回	テーマ	言語感覚について
	内 容	「にほんごであそぼ」等の幼児番組を視聴して、言語感覚の重要性について学ぶ。
第 17 回	授業時間外 学修	予習： 幼児番組を視聴して、言葉がどのように扱われているか整理しておく。 復習： 表現に特徴のある絵本等を選んでみる。
	テーマ	幼児を取り巻く言語環境について
第 18 回	内 容	幼児を取り巻く言語環境と幼児の具体的な言語生活について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 自分の幼児期を振り返り、言語環境について考えておく。 復習： 言語環境が幼児に与える影響について調べる。
第 19 回	テーマ	伝えるということについて (まとめ)
	内 容	これまでの授業を振り返り、伝えるということについて自分の考えをまとめる。
第 20 回	授業時間外 学修	予習： 既習内容を振り返り、疑問点等をまとめる。 復習： 疑問点等について既習内容を確認する。
	教科書・テキスト	なし。
参考書・参考資料等	幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）	

	<p>保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p>
成績評価の方法・基準	<p>レポート試験と授業の最後に提出する演習ペーパーにより、言葉の特性や発達過程についての理解の程度（35%）、伝えることの重要性や難しさについての理解の程度（35%）、「コミュニケーション能力」（4）獲得の程度（20%）、授業参加度（10%）で評価する。</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>授業後に提出された演習ペーパー等については、次回の授業において解説する。</p>
授業時間外学修	<p>予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。各授業の資料や返却された演習ペーパーを見直し、既習内容を確認するとともに次回の授業内容との関わりを理解する。（約 15 時間）</p>
備考	<p>実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>担当教員は、幼稚園にて保育に従事した実務経験を持つ。幼稚園教諭としての実務経験を活かして、言葉の性質や特徴についての理解を深め、言葉を適切に使えるよう事例を挙げながら授業を行う。</p> <p>※必要に応じて、授業内容を変更する場合がある。</p>
連絡先（質問等）	<p>オフィスアワー 月曜日 12 時 25 分～12 時 50 分</p> <p>授業前後に、教室にて質問を受け付ける。</p>

授業科目	幼児と表現			授業形態	演習	単位数	1 単位
担当者	花田嘉雄、白崎直季、小田幹雄、城山萌々						
ナンバリング	ESM1A14	開講時期	1 年後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼児:必修 保育士:必修 主事任用:			実務経験のある教員による授業科目		該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の基礎的な知識、技能を身につけることを目的とし、様々な実践活動を通じて、幼児の表現活動のあり方や課題を探っていく。 ・また、グループワークにより、自他の表現力を養い・認め合える場づくりを学び、実践する。 ・スマートフォン等からクラウドサービスを使用し、課題の製作／共有／プレゼンテーションを行う。 						
アクティブラーニングの実施	○			ICTを活用した授業の実施	○		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の感性と表現についての基礎的な内容を理解し、領域「表現」の位置付けについて説明できる。 ・様々な実践活動の中で協働して表現することの楽しさを実感し、より豊かな表現に繋げていくことができる。 ・実践活動を通じて得られた様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。 ・「コミュニケーション能力」(3)「伝え合う手段を見つけることができる」を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	領域「表現」のねらいと内容				
		内容	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)に示されている「表現」の意味や内容、配慮事項について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを読む 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。				
	第2回	テーマ	幼児の感性と表現について				
		内容	幼児期の表現活動や感性の育ちとその意味や意義について、実際の活動の例などを参照しながら理解を深める。				
		授業時間外学修	予習：幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容を踏まえた上で、表現活動にはどのようなものがあるか具体的に調べる。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。				
	第3回	テーマ	身近な素材を用いた表現活動(1) 墨汁				
		内容	墨汁・紙コップ・ロール紙を用い、グループワークによる表現活動を実践する。				
		授業時間外学修	予習：墨汁を用いる活動に適した服装や環境を整えておく。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。				
	第4回	テーマ	身近な素材を用いた表現活動(2) 絵の具				
		内容	前回の墨汁による作品に、絵の具による色彩を加えて創作活動を展開する				
		授業時間外	予習：製作した墨汁の作品を見ながら展開の仕方について考えておく。				

	学修	復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。
第5回	テーマ	身近な素材を用いた表現活動の発展
	内容	前回までに製作した作品を素材として使い、テーマに基づいて表現活動を発展させる。
	授業時間外学修	予習：製作した作品から様々なイメージやアイデアを拓げる 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。
第6回	テーマ	子どもと遊び場の企画
	内容	子どもが創造力を膨らませられるような遊び場について考える。
	授業時間外学修	予習：遊び場のイメージを作成する。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。
第7回	テーマ	子どもと遊び場の作成
	内容	子どもが楽しく安全に遊ぶための遊び場を作る。
	授業時間外学修	予習：遊び場作成のための準備をする。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。
第8回	テーマ	子どもの表現遊びについての振り返り
	内容	実習を通して子どもの表現遊びや子どもの感性について考察する。
	授業時間外学修	予習：実習で関わった子どもの様子の記録をまとめる。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。
第9回	テーマ	ICTを用いた表現活動について
	内容	スマートフォン等の機材を使い、ストップモーションムービーを制作する。
	授業時間外学修	予習：表現活動における情報機器の活用について調べる。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。
第10回	テーマ	ICTを用いた表現活動についての実践
	内容	ストップモーションムービーを完成させ、発表する。
	授業時間外学修	予習：ストップモーションムービーの完成に向けて編集作業をする。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。
第11回	テーマ	レジジョ・エミリアの保育実践について
	内容	子どもの表現活動の援助について、レジジョ・エミリアの保育実践内容を参照しながら考察する。
	授業時間外学修	予習：表現活動の援助について調べる。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。
第12回	テーマ	ドキュメンテーションについて
	内容	幼児の表現活動をより充実したものにするために、記録や活動の可視化について理解を深め、これまでの活動に基づいてまとめる。
	授業時間外学修	予習：これまでの活動記録を整理しておく。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。
第13回	テーマ	表現とコミュニケーションについて
	内容	障がい者と健常者との表現活動に関する映像資料を視聴し、表現とコミュニケーションについて考える。視聴内容について、各自テーマを付け、表現とコミュニケーションについてレポートをまとめる。
	授業時間外学修	予習：映像資料に関する配布資料を熟読しておく。

		学修	復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。
	第 14 回	テーマ	幼児の表現の多様性について
		内 容	課題レポートの内容について1分間スピーチを行う。
	学修	授業時間外	予習：課題レポートの内容をまとめておく。
		学修	復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。
	第 15 回	テーマ	幼児と表現についてのまとめ
内 容		これまでの授業を振り返り、表現をテーマにディベートを行う。	
授業時間外		予習：今までの授業内容について振り返っておく。	
学修	学修	復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。	
教科書・テキスト	幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） そのほか、適宜資料を配付する。		
参考書・参考資料等	レッジョ・エミリアの幼児教育(佐藤学監修 ワタリウム美術館編 東京カレンダー株式会社) その他授業中に適宜資料を配布する。		
成績評価の方法・基準	幼稚園教育要領「表現」の理解および課題提出(70%)、「コミュニケーション能力」(3)の獲得の程度(15%)、 授業参加度(15%)で評価する。		
課題に対するフィードバックの方法	製作した作品や発表、レポートについて、授業内で講評を行う。		
授業時間外学修	予習（各授業回約 15 分）、復習（各授業回約 15 分）、として、授業計画で示された内容を実施する。（約 12 時間） 課題の提出に向け、製作する。（約 5 時間） プレゼンテーションにむけて準備を行う。（約 4 時間）		
備 考	必要に応じて、授業内容を変更する場合がある。		
連絡先（質問等）	オフィスアワー 花田：金曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 白崎：火曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 小田：火曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 城山：水曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 その他、授業前後に教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	幼児教育者論			授業形態	講義	単位数	2	単位
担当者	密城 吉夫							
ナンバリング	ESF1A15	開講時期	1年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15	回
必修・選択	幼免:必修 保育士:必修			実務経験のある教員による授業科目			該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。							○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。							
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。							○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。							
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。							
授業の概要・方法	幼児教育者とはどうあるべきか映像視聴を通して、幼児教育者の存在意義、必要な能力について、求められる資質・能力を理解する。自己の理想の「先生像」を思い描きながら、追求していく。							
アクティブラーニングの実施	-			ICTを活用した授業の実施	-			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育者の基本資質と専門的資質について説明できる。 ・教育観の変遷を踏まえ、幼児教育の社会的意義を説明できる。 ・内外専門家と連携し、チームとして課題に対応する必要性について説明できる。 ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身につける。 							
授業計画	第1回	テーマ	イントロダクションー教育者とはー					
		内容	自身がお世話になってきた先生方の姿・教え方等、さらにはその意図に思いを巡らせながら、教育者・保育者の在り方を考察する。					
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読する。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
	第2回	テーマ	幼児教育者の社会的意義と職務					
		内容	幼稚園教諭の1日の業務に関するVTRを視聴し、その流れや思いを理解する。また、求められている職務について学ぶ。					
	第3回	授業時間外学修	予習：幼児教育者の職務についてまとめる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
		テーマ	幼児教育者の資質・能力					
	第4回	内容	教育・保育、協調性、さらには事務等の業務を踏まえ、そこに求められる資質・能力を考察する。					
		授業時間外学修	予習：幼児教育者に求められると考える資質についてまとめる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
	第5回	テーマ	子ども理解					
		内容	教育・保育に携わるにあたっての、子ども理解の重要性を学ぶ。					
	第5回	授業時間外学修	予習：要領(参考書)のP.7~9を熟読する。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
テーマ		主体性を尊重するということ。						
第5回	内容	教育方法や保育方法・環境構成について自身の体験を踏まえたり、事例を学んだりし						

	回		ながら、主体性を尊重する重要性を理解し、その方法を考察する。
	授業時間外 学修		予習：要領(参考書)のP.3～5を熟読する。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 6 回	テーマ		幼児教育における協働の必要性
	内 容		園内での協働がもたらす子どもへの影響を理解した上で、その機会について学ぶ。
	授業時間外 学修		予習：要領(参考書)のP.19を熟読する。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 7 回	テーマ		発達観の変遷(1)【発達観の変遷から】
	内 容		伝統的な発達観を確認しながら、その教育との関係を理解する。
	授業時間外 学修		予習：配布資料を熟読する。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 8 回	テーマ		発達観の変遷(2)【発達観の変遷から】
	内 容		代表的な教育思想を確認しながら、その実践の現状を考察する。
	授業時間外 学修		予習：配布資料を熟読する。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 9 回	テーマ		未満児との関わりにおける幼児教育者
	内 容		未満児の発達の目安を確認しながら、幼児教育者としての関わり方を考察する。
	授業時間外 学修		予習：指針(参考書)のP.16～22を熟読する。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 10 回	テーマ		以上児との関わりにおける幼児教育者
	内 容		以上児の発達の目安を確認しながら、幼児教育者としての関わり方を考察する。
	授業時間外 学修		予習：指針(参考書)のP.22～30を熟読する。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 11 回	テーマ		子どもの遊びをどう捉えるか
	内 容		教育観や子どもの主体性を引き出すこと等、既習した内容を踏まえ、「遊び」とはどのようなものか、について考察する。
	授業時間外 学修		予習：要領(参考書)のP.2を熟読する。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 12 回	テーマ		子どもの遊びを支援する幼児教育者の資質
	内 容		特に「遊び」を充実させるための環境構成を推測し、そのために幼児教育者に求められる資質を考察する。
	授業時間外 学修		予習：遊びの支援者としての幼児教育者に求められると考える資質についてまとめる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 13 回	テーマ		保育者や外部専門機関との連携
	内 容		子育て支援や園外との協働性がもたらす子どもへの影響を理解した上で、その機関や機会について学ぶ。
	授業時間外 学修		予習：要領(参考書)のP.10、19を熟読する。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 14 回	テーマ		幼児教育者の生涯の学び
	内 容		幼児教育者になるにあたって、自身が身につけるべきであると考えられる能力を踏まえ、その学び

	回		を得るための今後の自身の在り方を考察する。
	授業時間外 学修		予習：幼児教育者としての自身にとって、今後、必要な学びをまとめる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 15 回	テーマ	総括
		内 容	授業全般を振り返りその確認を行うと共に幼児教育者とはどうあるべきなのかを考察する。
	授業時間外 学修		予習：幼児教育者の役割に関する既習内容を振り返り、要点をまとめる。 復習：既習内容を振り返り、疑問点を確認する。
第 16 回		試験	
教科書・テキスト	適宜、資料を配布する。		
参考書・参考資料等	幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）		
成績評価の 方法・基準	試験による知識の理解（40%）、試験による専門的考え方（35%）、「コミュニケーション能力」（1）獲得の程度（10%）、授業参加度（15%）で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	各自が授業後に自主的に復習をしてノートにまとめる。		
授業時間外学修	予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。 各自が毎回の内容の関連事項を調べてまとめる（約 2 時間）。		
備 考	試験時は自筆のノートの持ち込みを可とする。		
連絡先（質問等）	オフィスアワー 水曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 その他、授業前後に教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	教育原理			授業形態	講義	単位数	2 単位
担当者	渡辺聡						
ナンバリング	ESF1A16	開講時期	1 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼免:必修 保育士:必修 主事任用:選択必修			実務経験のある教員による授業科目			該当する
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	「教育」とは何か、各回のテーマに沿って追究する。文献資料や視覚（絵図・VTR等）資料を目的に応じて採用し、学生同士の対話を促し、講義とグループワークなどアクティブ・ラーニングにつながる協同的な学びも導入しながら行う。また、課題の提出においては、手描きの他に Google form で回答を求める場合がある。フィードバックは、当該授業で行う。						
アクティブラーニングの実施	○			ICT を活用した授業の実施	○		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の諸概念並びにその本質と目標について理解し、子ども・教員・家庭・学校の諸要素と関係性について説明できる。 ・現代社会における教育課題を、近代教育制度の歴史的な視点から考え、問題点を考察できる。 ・学校や学習に関わる概念や方法を理解している。 ・代表的な教育思想家の思想を理解している。 ・「コミュニケーション能力」(2)「人間への信頼」を身に付ける。=協同的な学び 						
授業計画	第1回	テーマ	「教育」の意義—教育基本法を基に				
		内容	教育基本法から見える、教育の在り方について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを読む。 復習：授業内容を振り返り、理解した内容・感想を記入する。				
	第2回	テーマ	「教育」の定義				
		内容	幼稚園教育要領・学習指導要領を基に、教育の在り方について学ぶ。				
	第3回	授業時間外学修	予習：幼稚園指導要領の熟読 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理したりまとめたりする。				
		テーマ	保育や教育での連携				
	第4回	内容	人の成長を支える家庭・学校・地域・社会との連携について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：幼稚園指導要領・保育所保育指針の「連携」についての記述を読む。 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理したりまとめたりする。				
	第5回	テーマ	子どもの福祉				
		内容	家庭の福祉と公的な福祉支援について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：児童福祉法について調べる。 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理したりまとめたりする。				
		テーマ	子ども観の歴史				
		内容	日本・西洋の近代子ども観の変遷について学ぶ。				

回	授業時間外 学修	予習：自分が考える「子どもとは？」について考えをまとめる。 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理したりまとめたりする。
第 6 回	テーマ	社会教育・生涯教育
	内 容	社会教育の歴史や意義と生涯教育の意義についてまとめ、問題点を考察する。
回	授業時間外 学修	予習：社会教育とは何か、考えをまとめる。 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理したりまとめたりする。
第 7 回	テーマ	近代教育制度（日本）の成立と展開の歴史①
	内 容	明治・大正期の教育制度の理念や考え方を学び、日本の教育制度の成立と展開について理解する。
回	授業時間外 学修	予習：参考書の該当部分を読む。 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理したりまとめたりする。
第 8 回	テーマ	近代教育制度（日本）の成立と展開の歴史②
	内 容	戦後・現在の教育制度の理念や考え方を学び、日本の教育制度の変遷と問題点について考える。
回	授業時間外 学修	予習：参考書の該当部分を読む。 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理したりまとめたりする。
第 9 回	テーマ	教育法規や教育行政の歴史としくみ
	内 容	現在の教育・保育に関する法規や行政のしくみの概要を理解し、発展的に子育て支援の新制度やこども家庭庁についての理解を深める。
回	授業時間外 学修	予習：配付された資料（こども家庭庁ガイドブック・子ども版）を読む。 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理したりまとめたりする。
第 10 回	テーマ	世界の教育・保育の歴史としくみ
	内 容	世界の教育制度の歴史と様子をとらえ、教育格差の問題について考察する。
回	授業時間外 学修	予習：日本の保育の無償化について調べる。 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理したりまとめたりする。
第 11 回	テーマ	教育・保育の思想①
	内 容	教育・保育に関する外国の思想家である、コメニウス・ルソー・ペスタロッチ他の思想の特徴を学び、その主張について考察する。
回	授業時間外 学修	予習：参考書の該当部分を読む。 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理したりまとめたりする。
第 12 回	テーマ	教育・保育の思想②
	内 容	教育・保育に関する外国の思想家である、フレーベル・モンテッソリー・シュタイナー・ピアジェ他の思想の特徴を学び、その主張について考察する。
回	授業時間外 学修	予習：参考書の該当部分を読む。 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理したりまとめたりする。
第 13 回	テーマ	教育・保育の思想③
	内 容	教育・保育に関する日本の思想家である、福沢諭吉・倉橋惣三・斎藤喜博他の思想の特徴を学び、その主張について考察する。
回	授業時間外 学修	予習：参考書の該当部分を読む。 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理したりまとめたりする。
第	テーマ	現代の教育理論と問題点

	14回	内 容	ディーンイの教育理論を例に、現代に必要とされる「能力」について学び、教師の教育に対する考え方について考察する。
		授業時間外 学修	予習：配付資料について読みを深める。 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理したりまとめたりする。
	第15回	テーマ	総括
		内 容	教育に関する学びを振り返り、問題意識をもった内容について深く考察する。また、理解できた授業内容や疑問点を発展的に整理させる。
		授業時間外 学修	予習：教育の目的・内容について考える資料を読み深める。 復習：1回目から前回までの学びを振り返り、要点と疑問点を整理する。
	第16回	定期試験	
教科書・テキスト	適宜、資料を配付する。		
参考書・参考資料等	やさしい教育原理 第3版（田嶋一・中野新之佑・福田須美子・狩野浩二 著 有斐閣） 新基本保育シリーズ2 教育原理（矢藤誠慈郎 北野幸子 編集 中央法規）		
成績評価の方法・基準	授業参加度（15%） 授業ごとの課題シート内容（30%）とテスト内容（40%） 「コミュニケーション能力」(2)「人間への信頼」を身に付ける＝協同的な学び（15%）、で評価する。		
課題に対するフィードバックの方法	課題シート返却は、次の回の授業で行う。テストは、最終回もしくは研究室等の場を設定して返却する。		
授業時間外学修	予習（各授業回約30分）、復習（各授業回約30分）として、授業計画に示された内容を実施する。 課題シートは、授業内容・資料や参考書の内容を勘案し、自らの視点を挿入しながら総合してまとめる（約45分）。返却された提出シートや課題シートを再吟味し、学修内容の理解を深める（約2時間）。		
備 考	授業欠席の場合は、該当週中に資料を受け取り、その週中迄に提出すること。。尚、授業内容や順番は、授業進度によって変更されることがある。		
連絡先（質問等）	オフィスアワー 木曜日 12時25分～12時50分に対応する。 または、授業後に教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	教育心理学		授業形態	演習	単位数	2 単位	
担当者	密城 吉夫						
ナンバリング	ESF1A17	開講時期	1 年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼児:選択必修 保育士:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	保育士は子どもとの相互作用のみならず、保育者として関わる援助を通して生涯にわたっての発育、成長も考慮しなければならない。本演習では、保育者としての視点をもちつつ、子どもの成長の過程や機能面にも触れながら進めていく。						
アクティブラーニングの実施	-		ICTを活用した授業の実施	-			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・発達過程及び内因の枠組みとしての知識、学習等の諸概念について説明できる。 ・発達観をもとに自己の教育観を確認し、望ましい学習活動についての展望を記述できる。 ・効果的な指導のために、幼児、教師、教授活動を要因群として捉える分析的な視点を身につけ、説明できる。 ・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	オリエンテーション・テキスト・授業内容の説明				
		内容	これから行う				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読する。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第2回	テーマ	胚芽期、胎児期				
		内容	人間が誕生するメカニズムを確認する。				
	第3回	授業時間外学修	予習：胚芽期や胎児期という誕生の過程をもって現在がある事を調べる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
		テーマ	遺伝と環境				
	第4回	内容	紀元前より議論のあった遺伝と環境に対する考え方と現在の傾向を学習する。				
		授業時間外学修	予習：現在の自己の性格や習慣はどのように成り立ってきたのかを考える。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第5回	テーマ	心理学の変遷				
		内容	これまで心理学の分野で活躍した人物の功績に触れ、現在までの成り立ちを考える。				
	第5回	授業時間外学修	予習：心理学で功績のあった人物を調べ、現在の心理学の傾向を調べる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
		テーマ	視覚の発達、視覚断崖				
	第5回	内容	乳幼児の視覚を中心とした機能面の発見を学習していく。				
		授業時間外学修	予習：乳幼児の生まれもった機能面を調べる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				

第 6 回	テーマ	感覚間の協応、共鳴動作
	内 容	新生児の社会的微笑から、相互作用までを理解する。
	授業時間外 学修	予習：新生児と成人が微笑する瞬間を考える。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 7 回	テーマ	原始反射とメカニズム
	内 容	原始反射のメカニズムを考え、その原理について調べる。
	授業時間外 学修	予習：生まれもった能力である原始反射にはどのようなものがあるかを調べる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 8 回	テーマ	動物実験（刷り込み、条件づけ、学習性無力、愛着）
	内 容	動物実験に伴って人間と共通する内容に触れ、学習する。
	授業時間外 学修	予習：心理学における動物実験には何があるのかを調べる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 9 回	テーマ	学習性無力
	内 容	実験を通じた学習性無力に触れ、無気力になるまでのメカニズムを学習する。
	授業時間外 学修	予習：不得意な分野に触れたくない気持ちになる過程を考える。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 10 回	テーマ	自己認知
	内 容	自己認知の実験や成り立ちを学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：自分が自分である事を自覚したのはいつからかを考える。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 11 回	テーマ	指さし行動（Joint Attention）
	内 容	言葉の獲得までの過程を考える。
	授業時間外 学修	予習：家庭内を通しての二項関係から三項関係を通じての言葉の獲得を調べる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 12 回	テーマ	同化と調節、相互作用、感覚的知能の段階、前概念的思考の段階、直観的思考の段階（前半）
	内 容	現在の心理学での中心となる相互作用を通じて、子どもの思考の発達を考える。
	授業時間外 学修	予習：成人期の思考をそれ以前の思考との比較を調べる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 13 回	テーマ	直観的思考の段階（後半）
	内 容	実生活で直面する成人期と子どもの試行段階の違いを具体的に学習する。
	授業時間外 学修	予習：義務教育で学ぶ習熟度には、それぞれ段階があるのはどうしてかを考える。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 14 回	テーマ	具体的操作の段階、形式的操作の段階
	内 容	成人期に近づく人間の基本的な心理について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：直観的思考と比較して次の段階へと進む心理を調べる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 15 回	テーマ	教育心理学の基本的な知見に関する既習内容を振り返り、要点をまとめる。
	内 容	これまで学んできた内容を復習する。
	授業時間外 学修	予習：第1回から学んできた内容を振り返り、各自がまとめていく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。

	第 16 回	試験
教科書・テキスト	『新 もっと子どもがわかる 好きになる 乳幼児発達心理学』 繁多進 監修 向田久美子 石井正子 編著 福村出版	
参考書・参考資料等	図説心理学入門 第 2 版 齋藤勇 編 誠信書房 この他、適宜プリントを配布する。	
成績評価の方法・基準	試験による知識の理解 (40%)、試験による専門的考え方 (35%)、「自分で考え、実践できる能力」(1)獲得の程度 (10%)、授業参加度 (15%) で評価する。	
課題に対するフィードバックの方法	各自が授業後に自主的に復習をしてノートにまとめる。	
授業時間外学修	予習(各授業回約 30 分)として、復習(各授業 30 分)として、授業計画で示された内容を実施する。 各自が自主的に予習をし、復習として関連した内容をまとめる(約 45 時間)。 最終回では、自己評価を行うと共に既習内容の理解を深める(約 2 時間)。	
備考	試験時は自筆のノートの持ち込みを可とする。	
連絡先(質問等)	オフィスアワー 水曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 その他、授業前後に教室にて質問を受け付ける。	

授業科目	発達心理学		授業形態	講義	単位数	2 単位	
担当者	伊藤朋子						
ナンバリング	ESF1A18	開講時期	1 年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼児:必修 保育士:必修		実務経験のある教員による授業科目			該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	テキストや配付資料を用いて、乳幼児の発達及び学習に関する諸概念や過程を学ぶ。また、映像視聴やグループディスカッション、発表等を通して、発達を踏まえた主体的学習を支える保育についての理解を深める。						
アクティブラーニングの実施	○		ICT を活用した授業の実施				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の発達及び学習に関する諸概念について理解し、説明ができる。 ・乳幼児の運動発達、言語発達、認知発達、社会性の発達及び学習の過程について理解し、説明ができる。 ・乳幼児の心身の発達を踏まえた主体的学習を支える保育の考え方を理解し、説明ができる。 ・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	人間における発達の独自性				
		内容	人間の発達の独自性を踏まえ、乳幼児期の発達の重要性を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読する。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第2回	テーマ	発達理解の方法と意義				
		内容	子どもの知能検査の映像視聴を踏まえ、子どもの発達を捉える視点、子どもの発達を理解することの意義を学ぶ。				
	第3回	授業時間外学修	予習：子どもとかわった体験を振り返り、子どもについてのイメージを整理しておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
		テーマ	子どもの学習に関する理論				
	第4回	内容	学習、発達に関する理論の概要を知り、過去における学習観と発達観を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：自分の体験を振り返り、言葉の獲得の過程について小レポートにまとめる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第5回	テーマ	子どもの身体機能と運動の発達				
		内容	子どもの身体機能と運動能力の発達を知り、映像視聴を通して保育者のかかわりを考える。				
	第6回	授業時間外学修	予習：「発達加速現象」の意味を調べ、どのような例があるかを考える。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
第7回		テーマ	子どもの言語の発達				

5 回	内 容	子どもの言語の発達過程を学び、保育者のかかわりについてグループディスカッションを行い、そこで得られた考えについて発表を行う。
	授業時間外 学修	予習：3歳未満児、3、4、5歳児に読み聞かせたい絵本を選ぶ。 復習：グループディスカッション、発表についての感想をまとめる。
第 6 回	テーマ	子どもの社会性の発達
	内 容	子どもの社会性の発達過程を学び、映像視聴を通して保育者のかかわりを考える。
第 7 回	授業時間外 学修	予習：子ども同士のいざごに対する対応について考える。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	テーマ	愛着の形成
第 8 回	内 容	ボウルビーの理論、愛着の形成の概要を知り、保育者のかかわりを考える。
	授業時間外 学修	予習：保育所保育指針 P.6～7、13 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 P.15～17を読む。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 9 回	テーマ	子どもの考え方の特徴
	内 容	ピアジェの理論、幼児期における知的発達の過程を知り、保育者のかかわりを考える。
第 10 回	授業時間外 学修	予習：実習での体験を振り返り、「子どもならではのものの見方、考え方」だと自分が感じたことをまとめる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	テーマ	子どもの認知発達と学習
第 11 回	内 容	ヴィゴツキーの理論、子どもの認知発達と学習の過程を知り、保育者の関わりを考える。
	授業時間外 学修	予習：実習での体験を振り返り、子どもの成長を促す保育者の言葉がけにはどのようなものがあつたかをまとめる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 12 回	テーマ	子どもの心身の発達と主体的学習
	内 容	保育実践の事例を通して、子どもの心身の発達と主体的学習について学ぶ。
第 13 回	授業時間外 学修	予習：幼稚園教育要領 P.5、8～11 保育所保育指針 P.7～8、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 P.4～5を読む。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	テーマ	子どもの主体的学習を支える保育の評価の考え方
第 14 回	内 容	保育実践の映像視聴を踏まえ、子どもの主体的学習を観点とした保育の評価についてディスカッションを行い、各グループの考えを小レポートにまとめる。
	授業時間外 学修	予習：幼稚園教育要領 P.11、保育所保育指針 P.9～10、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 P.12を読む。実習での体験を振り返り、保育の評価の仕方について考える。 復習：ディスカッションについての感想をまとめる。
第 15 回	テーマ	遊びにおける主体的学習
	内 容	保育実践の事例を通して、遊びにおける主体的学習について学ぶ。
第 16 回	授業時間外 学修	予習：実習での体験を振り返り、子どもが好きな遊びをまとめる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。

	第13回	テーマ	発達を踏まえた主体的学習を支える保育者の役割と援助
		内容	保育実践の映像視聴を踏まえ、主体的学習を支える保育者の役割と援助についてグループディスカッションを行い、各グループの考えを小レポートにまとめる。
		授業時間外学修	予習：実習での体験を振り返り、主体的学習を支える保育者の援助についてまとめる。 復習：グループディスカッションについての感想をまとめる。
	第14回	テーマ	発達障害の概要と支援
		内容	発達障害の概要を知り、映像視聴を通して支援について学ぶ。
	第15回	授業時間外学修	予習：幼稚園教育要領 P. 12、P. 27、保育所保育指針 P. 9、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 P. 12～13 を読む。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
		授業時間外学修	予習：既習内容を振り返り、疑問点、理解不足の点をまとめる。 復習：疑問点、理解不足の点について既習内容を確認する。
	第16回		定期試験
	教科書・テキスト	<p>実践につながる新しい保育の心理学（大浦賢治編著 ミネルヴァ書房）</p> <p>幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）</p> <p>保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p> <p>また、授業中に適宜資料を配付する。</p>	
	参考書・参考資料等	<p>保育の心理学Ⅰ（無藤隆・藤崎真知代編著 北大路書房）</p> <p>保育の心理学Ⅱ（清水益治・無藤隆編著 北大路書房）</p>	
	成績評価の方法・基準	<p>定期試験と毎回の授業後に提出する小レポートにより、乳幼児の発達及び学習についての諸概念や過程、発達を踏まえた主体的学習を支える保育に関する理解の程度（70%）、「自分で考え、実践できる能力」（1）獲得の程度（20%）、授業参加度（10%）で評価する。</p>	
	課題に対するフィードバックの方法	<p>授業後に提出された小レポートについては、次回の授業にてフィードバックをする。定期試験については、実施後講評する。</p>	
授業時間外学修	<p>予習（各授業回約30分）、復習（各授業回約30分）として、授業計画で示された内容を実施する。</p> <p>定期試験に向けてテキストや資料を見直し、既習内容を確認する。（約50時間）</p> <p>定期試験の結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。（約3時間）。</p>		
備考	—		
連絡先（質問等）	授業前後に、教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	教育の制度と経営		授業形態	講義	単位数	2 単位	
担当者	渡辺聡						
ナンバリング	ESF2B19	開講時期	2 年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼児:必修		実務経験のある教員による授業科目			該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	就学前教育・学校教育の目的を達成するために、教育制度の枠組みと経営の観点を学ぶ。また、就学前教育と学校・地域との連携した教育活動の意義と内容、安全管理や安全教育について取り上げる。講義ではあるが、具体的な例や様子を基に、対話を尊重した学習形態も取り入れながら行う。また、課題の提出においては、手描きの他に Google form で回答を求める場合がある。フィードバックは、当該授業で行う。						
アクティブラーニングの実施	○		ICT を活用した授業の実施	○			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育制度や保育制度の基本的内容と関係法規の理解、および課題は何か考えることができる。 ・公教育としての学校・学級経営の姿と教育活動や学校評価を、就学前教育と比べながら理解できる。 ・学校と地域との連携について、意義や目的を理解できる。 ・学校の安心・安全への対応について、意義や目的を理解できる。 ・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり分析したりすることができる」を身に付ける。 						
授業計画	第1回	テーマ	オリエンテーションー教育の制度とは、経営とはー				
		内容	シラバスを基に本授業で取り上げる内容について確認し、教育制度や経営について、保育者として必要な様々な事項について考える。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを読み、興味をもった内容を調べる。 復習：授業内容を整理し、興味をもった内容についてまとめる。				
	第2回	テーマ	公教育制度の目的				
		内容	公教育の原理や理念を教育基本法の規定から学ぶ。				
	第3回	授業時間外学修	予習：教育基本法及び関係諸法について調べる。 復習：法規に基づく公教育の目的について整理し、興味をもった内容を深める。				
		テーマ	保育制度ー幼稚園・認定こども園ー				
	第4回	内容	幼児教育を支える法令から、幼稚園の成立や変遷、現在の幼稚園・認定こども園の姿とその問題点について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：幼児教育を支える法令や制度について調べる。 復習：幼稚園・認定こども園について整理し、興味をもった内容についてまとめる。				
	第4回	テーマ	保育制度ー保育所ー				
		内容	幼児教育を支える法令から、保育所の成立や変遷、現在の保育所の姿とその問題点について学ぶ。				

	授業時間外 学修	予習：保育所制度を支える法令や制度について調べる。 復習：保育所について整理し、興味をもった内容についてまとめる。
第 5 回	テーマ	幼稚園・認定こども園・保育所を考える
	内 容	様々な形態をとる幼児教育制度について比較し、特徴を自らの視点を設定して学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：前時までの学びを振り返り、興味のある内容について調べる。 復習：授業内容を整理し、自分が追及した内容をまとめる。
第 6 回	テーマ	学校教育制度と保育制度
	内 容	学校教育法から学校制度と保育制度について確認し、さらに義務教育の目的や多様な就学実態について、幼児教育制度と比較しながら理解する。
	授業時間外 学修	予習：学校教育法を及び関係諸法について調べる。 復習：義務教育制度について、興味をもった内容を深める。
第 7 回	テーマ	学校・幼稚園・認定こども園・保育所経営を支える教育行政
	内 容	教育行政の仕組みを理解し、国・地方教育行政と学校・園経営への関係性について理解する。
	授業時間外 学修	予習：教育委員会について調べる。 復習：授業内容を整理し、自分が追及した内容をまとめる。
第 8 回	テーマ	経営方針と保育内容
	内 容	学校における教育活動について理解し、幼稚園や認定こども園・保育所の教育・保育内容と比較して考え、保育における経営の望ましい姿について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：学校や幼稚園・認定こども園・保育所の年間計画や方針を調べておく。 復習：学級経営について整理し、自分が追及した内容をまとめる。
第 9 回	テーマ	学級経営の仕組みや方法
	内 容	学級における教育活動について理解し、幼稚園や認定こども園・保育所の教育・保育内容と比較して考え、教育における経営の望ましい姿について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：学校や幼稚園・認定こども園・保育所の年間計画や方針を調べておく。 復習：学級経営について整理し、自分が追及した内容をまとめる。
第 10 回	テーマ	学校や幼稚園・認定こども園・保育所と地域との連携
	内 容	地域住民との連携について、意義や目的・方法・効果・問題点について事例を基にして学び、地域と共にある教育・保育について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：地域住民との連携について具体例を調べる。 復習：地域との連携について整理し、自分が追及した内容をまとめる。
第 11 回	テーマ	幼保小が連携した保育・教育
	内 容	幼保小連携について、目的・方法・効果・問題点について事例を基にして学び、連携した保育・教育の成果と問題点について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：幼保小が連携した保育・教育について、具体例を調べる。 復習：幼保小が連携した保育・教育について整理し、自分が追及した内容をまとめる。
第 12 回	テーマ	保育における安全管理
	内 容	安全教育についてのねらい、安全管理の療育、安全を維持する活動や関係する法令について学ぶ。
	授業時間外	予習：安全管理に関する資料を読む。

	学修	復習：安全管理について整理し、自分が追及した内容をまとめる。
第13回	テーマ	事件事例を基に考える危機管理
	内容	管理下における事例を基に、危機管理や緊急時の対応法について理解する。
	授業時間外学修	予習：資料や自己経験等を記述する。 復習：授業内容を整理し、危機管理に関する自分なりのマニュアルを作る。
第14回	テーマ	模擬マニュアルづくり
	内容	様々な危機管理マニュアルを基に、生活・交通・災害等の安全マニュアルを幼児教育の視点で作成する。
	授業時間外学修	予習：自分の興味をもったマニュアル例の資料を読む。 復習：危機管理について整理し、自分が追及した内容をまとめる。
第15回	テーマ	総括（まとめ）
	内容	今まで学んだ内容を振り返り、テーマ設定の基に、保育制度・経営についての協同的な学習を行う。（講義後、最終レポートを課す：4時間）
	授業時間外学修	予習：1～14回までで、自分が興味をもったテーマを決めて、話せるようにする。 復習：話し合いの内容を、自分なりの視点を決めてまとめる。
教科書・テキスト	適宜、資料を配付する。	
参考書・参考資料等	<p>新・教育の制度と経営 四訂版（元岡愛実・末富芳 編著 学事出版）</p> <p>新版 教育制度と教育の経営（諏訪英広・福本昌之 編著 あいり出版）</p> <p>学校の制度と経営（藤田祐介 編著 ミネルヴァ書房）</p> <p>保育者・小学校教員のための教育制度論（内山絵美子・山田知代・坂田仰 編著 教育開発研究所）</p>	
成績評価の方法・基準	<p>授業参加度（15%）</p> <p>授業ごとの提出シート内容（30%）と最終レポート内容（40%）</p> <p>「自分で考え、実践できる能力」（2）「実践について理解したり分析したりすることができる」＝協同的な学び（15%）で評価する。</p>	
課題に対するフィードバックの方法	提出シート返却は、次の回の授業で行う。最終レポートは、研究室等の場を設定して返却する。	
授業時間外学修	<p>予習（各授業回約30分）、復習（各授業回約30分）として、授業計画に示された内容を実施する。</p> <p>レポートが課された際は、授業内容・資料や参考書の内容を勘案し、自らの視点を挿入しながら総合してまとめる（約45分）。返却された提出シートやレポートを再吟味し、学修内容の理解を深める（約2時間）。最終レポート（4時間）。</p>	
備考	授業欠席の場合は、該当週中に資料を受け取り、その週中迄に提出すること。尚、授業内容や順番は、授業進度によって変更されることがある。	
連絡先（質問等）	<p>オフィスアワー 木曜日 12時25分～12時50分に対応する。</p> <p>または、授業後に教室にて質問を受け付ける。</p>	

授業科目	保育・教育課程論		授業形態	講義	単位数	2単位	
担当者	荒明 聖						
ナンバリング	ESF2A20	開講時期	2年次後期	授業時間数	30時間	授業回数	15回
必修・選択	幼児:必修 保育士:必修		実務経験のある教員による授業科目			該当	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	関係法規、指導要領、保育指針等をふまえ、保育・教育の課程に係る基礎的・基本的な事項、全体計画や指導展開のしかたを理解することを通して、保育者の役割を実践的に学ぶ。						
アクティブラーニングの実施	○		ICTを活用した授業の実施	○			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育と保育所保育、幼保連携型の保育の特長について理解する。 ・保育課程の編成と保育計画の作成、保育実践の評価と改善の一体化について理解する。 ・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」力を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	保育とは、教育とは				
		内容	オリエンテーション、保育・教育を課程論の視点から学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを読み解く。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、次時の授業に備える。				
	第2回	テーマ	保育と教育のカリキュラム アップデート①				
		内容	幼稚園教育、保育所保育、幼保連携型認定こども園での保育を課程の視点で学ぶ。				
	第3回	授業時間外学修	予習：授業計画に示されたテーマに関して課題意識をもつ。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、次時の授業に備える。				
		テーマ	保育と教育のカリキュラム アップデート②				
	第4回	内容	幼児教育・保育と義務教育の教育課程を比較・検討して特徴を把握し、整理する。				
		授業時間外学修	予習：授業計画に示されたテーマに関して課題意識をもつ。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、次時の授業に備える。				
	第5回	テーマ	育てる 教える 考えさせる①				
		内容	「架け橋期」を意識した保育と教育の連続性を、具体的な実践事例を通して学ぶ。				
	第6回	授業時間外学修	予習：授業計画に示されたテーマに関して課題意識をもつ。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、次時の授業に備える。				
		テーマ	育てる 教える 考えさせる②				
	第7回	内容	「架け橋期」を意識した保育と教育の連続性を、具体的な実践事例を通して学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：授業計画に示されたテーマに関して課題意識をもつ。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、次時の授業に備える。				
	第8回	テーマ	コーディネートは、こうでねえと				
		内容	カリキュラム・マネジメントの基礎的・基本的事項について学ぶ。				
	第9回	授業時間外学修	予習：授業計画に示されたテーマに関して課題意識をもつ。				

	学修	復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、次時の授業に備える。
第7回	テーマ	幼保こども園のカリキュラム探訪①
	内容	幼稚園教育要領をもとに基本的なカリキュラムについて分析的に学び、グループワークによる小演習を行う。
	授業時間外学修	予習：授業計画に示されたテーマに関して課題意識をもつ。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、次時の授業に備える。
第8回	テーマ	幼保こども園のカリキュラム探訪②
	内容	保育所保育指針をもとに基本的なカリキュラムについて分析的に学び、グループワークによる小演習を行う。
	授業時間外学修	予習：授業計画に示されたテーマに関して課題意識をもつ。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、次時の授業に備える。
第9回	テーマ	幼保こども園のカリキュラム探訪③
	内容	幼保連携型認定こども園・保育要領をもとに基本的なカリキュラムについて分析的に学び、グループワークによる小演習を行う。
	授業時間外学修	予習：授業計画に示されたテーマに関して課題意識をもつ。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、次時の授業に備える。
第10回	テーマ	保育者と保護者と法令に守られている保育
	内容	幼保こども園の役割と、関連する法令についてピックアップしながら学ぶ。
	授業時間外学修	予習：授業計画に示されたテーマに関して課題意識をもつ。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、次時の授業に備える。
第11回	テーマ	乳児期・幼児期・幼年期
	内容	「乳児」「1歳児以上3歳未満児」「3歳以上児」の発達特性による保育展開を学ぶ。
	授業時間外学修	予習：授業計画に示されたテーマに関して課題意識をもつ。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、次時の授業に備える。
第12回	テーマ	保育計画・指導計画
	内容	「週案」「年間計画」等、短期・長期のカリキュラム・マネジメントの在り方を学ぶ。
	授業時間外学修	予習：授業計画に示されたテーマに関して課題意識をもつ。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、次時の授業に備える。
第13回	テーマ	大切な記録
	内容	「保育記録」の意義と書き方、「保育評価」の重要性について具体的な事例から学ぶ。
	授業時間外学修	予習：授業計画に示されたテーマに関して課題意識をもつ。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、次時の授業に備える。
第14回	テーマ	実践事例考察
	内容	画像やVTR等の実践事例を通して、保育現場での課程編成について学ぶ。
	授業時間外学修	予習：授業計画に示されたテーマに関して課題意識をもつ。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、次時の授業に備える。
第15回	テーマ	保育・教育課程論のまとめ
	内容	これまでの保育・教育課程論の学びをふまえた「保育案」または「小論文」の作成
	授業時間外学修	予習：「保育案」作成にあたり、これまでの学びから自分なりのテーマを考える。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理する。

教科書・テキスト	幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成 29 年 3 月公示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園・保育要領（平成 29 年 3 月公示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）
参考書・参考資料等	講義・演習において適宜配付
成績評価の方法・基準	講義・演習後の「小レポート」（14回）及び「保育案の作成」（1回）により、理解・考察する諸能力の状況（70%）、「コミュニケーション能力」(3)「伝え合う手段を身につけることができる」の獲得状況（20%）出席度（10%）により評価する。
課題に対するフィードバックの方法	「小レポート」（14回）は、次時の講義・演習において解説してフィードバックする。 「保育案」は、実施後に講評する。
授業時間外学修	予習、復習ともに授業計画で示した内容を実施（各 20 分間程度）し、既習事項と本時内容との関連性をふまえた効果的な学びとすることで資質・技能を高めるようにする。
備考	実務経験のある教員による授業科目である。 国立幼稚園で 4 歳児保育、国立小学校で文部科学教官・教頭、公立小学校で教諭・教頭・校長、教育行政（幼児教育・生活科教育・道徳教育担当）の実務経験をもつ。幼稚園教員養成課程卒であることから自身の具体的な経験をふまえて指導する。なお、学生の理解度や講義・演習に係る社会情勢をふまえて内容を一部変更することがある。
連絡先（質問等）	オフィスアワー 金曜日 12 時 25 分～12 時 55 分、講義・演習の前後、その他要相談